登録室ご紹介

広島県

(社)広島県医師会　学術課
佐藤 圭介

チームワークの良さを基盤に

1. 広島県のがん登録の歴史

広島県地域がん登録事業が始まった平成14年(2002年)4月にはすでに2つのがん登録が稼働していました。1つめは昭和32年(1957年)から広島市医師会が行ってきた広島市地域がん登録(採録方式)。2つめは昭和48年(1973年)から広島県医師会が行ってきた広島県腫瘍登録(届出方式による病理登録)です。この3つのがん登録で収集した資料をお互いに使いあえるようにした相互利用協定が平成17年に結ばれた結果、全てのデータを集約したものとして現在の広島県地域がん登録データが出来上がったのです。

2. 登録室紹介

(1)中央登録室(放影研疫学部腫瘍組織登録室)

広島県地域がん登録の中央登録室を担う放射線影響研究所では、疫学部の腫瘍組織登録室がその任にあたっています。登録室の出入りはICカードで管理され、実質6名の専属職員(6月18日現在)が、日々活動しています。

広島県地域がん登録で活用している病理登録データは、標準DBSとは異なるサーバーを使用しています。そのため、単独のサーバーであれば必要のない移行作業が、毎年発生します。この移行作業に関わるデータセット作成に結構時間を要しますが、疫学解析室スタッフの協力を得て業務をこなしています。データ移行後は、再度、同定・確定・登録に着手し、終了後から集約を開始します。そのため一患者のがん情報が、20件を超えることも珍しくありません。また、地域がん登録票と病理登録情報が微妙に異なることも多く、集約作業は複雑です。しかし、病理情報があるからこそ、登録票の行間まで解読できることもしばしばです。

(2)広島県医師会腫瘍登録室

広島県医師会の腫瘍登録室では、広島県腫瘍登録情報の収集とデータ入力業務、地域がん登録票の回収、研修会の開催などの業務を行っています。協力医療機関への連絡は、広島県医師会の腫瘍登録室から行い、医療機関からの問い合わせ窓口にもなっています。

3. 広島県独自の取り組み

(1)実務連絡会議の開催

月に一度、広島県、放射線影響研究所、広島県医師会の各担当者が集まり、円滑に事業が進むように努力しています。

(2)実務者研修会の開催

広島県の委託を受け、広島県医師会と放射線影響研究所が協力して地域がん登録票の書き方研修会を広島県内数か所で開催しています。書き方に関する講義や、模擬事例に対する登録票記載実技を通して実力を高める内容となっています。参加者には広島県医師会長名の修了証が渡されます。

(3)遡り調査説明会

広島県では、平成17年(2005年)診断分から遡り調査を開始しました。地域がん登録届け出医療機関以外の医療機関が遡り調査対象になる場合もあるため、遡り調査実施前には、必ず遡り調査票の記入方法の説明会を広島県内2カ所で行っています。初めて遡り調査票を見るという医療機関でも円滑な提出につなげようとする試みです。その甲斐あって、近年はDCN約10%、DCO約5%で推移するまでになりました。

(4)登録票の書き方指導のための講師派遣

地域がん登録票の記入に不慣れな医療機関を中心に中央登録室のスタッフが訪問し、登録票の記載の指導を行っています。医療機関の希望に添った形式で、希望の時間帯に訪問し、医療機関の負担にならないように配慮しています。

(5)最後に

広島県の地域がん登録がこれほどに高い精度を維持できているのは医療機関のご協力、そして地域がん登録業務に関わる実務者の連携の良さのためと自負しています。これからも、地域がん登録全国協議会、国立がん研究センター、全国の地域がん登録室のご支援やご協力を得ながら、広島県、放射線影響研究所、広島県医師会の3者の強いつながりでよりよい地域がん登録にしていこうと思います。よろしくお願いいたします。